

本翻訳はロシアNIS貿易会監修による仮訳である。
カザフスタン共和国大統領ウェブサイト(<https://www.akorda.kz/ru/poslanie-glavy-gosudarstva-kasym-zhomarta-tokaeva-narodu-kazahstana-1623953>)掲載の露文資料に基づく。

カシム=ジョマルト・トカエフ大統領のカザフスタン国民に向けた演説 新生カザフスタン：刷新と近代化の道

2022年3月16日

親愛なる国民の皆さん！
尊敬する友人の皆さん！

本日の演説には特別な意味がある。その内容と規模は1年の枠を超える。

我々は、野心的な目標を掲げている。

我々は共に新生カザフスタンの建設を始めた。

昨年、我が国は独立30周年という重要な節目を迎えた。歴史的な基準からすると、短い期間だ。ヌルスルタン・アビシエヴィチ・ナザルバエフ初代大統領の指導のもと、我々は長い道を歩み、大きな成果を上げてきたが、我々が団結を維持しなければ、すべてを失うかもしれない。年頭の騒擾は、このことを明確に示した。

1月の事件は、社会を震撼させた。国民は、国の一体性を脅かす未曾有の試練に直面した。この間に我々は、独立の恒久的な価値を深く認識し、平和、安定、調和がいかに重要であるかを理解した。

団結のおかげで、我々は国家を守ることができた。時宜にかなった対策がとられ、テロリストらに決定的な反撃を与えた。

私は、国民に対して隠し事をしたことはない。パンデミックの最中も、私はあらゆる問題について率直に話した。「悲劇の1月」の数日間、私は国民に向けて何度か演説を行い、状況を詳しく説明した。

私が下したすべての決断は、国の利益に立脚して行われた。そして、このアプローチは私にとって確固たるものである。

残念ながら、1月の事件では、過激派やテロリストの犯罪行為により多くの同胞が命を落とした。改めて、そのご家族や親族に深い哀悼の意を表したい。我々は、このような悲劇が二度と繰り返されないよう全力を尽くしていく。

これらの流血の犯罪に関与したすべてのならず者とテロリストを裁くことは、我々の義務である。我々は、1月の事件から重要な教訓を学ばなければならない。

我々は、我が国の平和と平穏を乱し、その安全を脅かすことを二度と許してはならない。

率直に言って、今、社会では、人々を惑わせ、事件について誤ったイメージを持たせるような噂や憶測が広まっている。したがって、信頼できる情報を発信し客観的な評価を下すことが極めて重要だ。国民が事件の原因を理解できるよう、あらゆる努力をしなければならない。カザフスタンには、「Өткен күннен алыс жок, келер күннен жақын жок（昨日より遠いものはなく、明日より近いも

のではない)」ということわざがある。

ちょうど昨日、国会で特別公聴会が開かれ、司法機関が捜査結果の完全な報告を行った。これほど広範な議論がなされたことはかつてなかった。

議員やジャーナリストは、社会が関心を持っている問題に対する率直な回答を得た。このことは、当局が1月の事件に対する公正な評価に何よりも関心を持っていることを示している。そして、私も全く同じ考えだ。我々は真実を語らなければならない。これが私の原則的な立場である。

省庁横断捜査本部が行っている捜査は、現在もまだ続いている。各司法機関には、それぞれの活動の結果を常に公表するよう指示している。

「悲劇の1月」事件とその後の非常事態の中で、約2,000人がさまざまな違法行為により拘束された。私は、最高検察庁に対し、罪の程度を明らかにし、加重な事情がなければ被拘束者の処罰を軽減するよう指示した。その結果、多くの市民が釈放された。

しかし、重大な犯罪を犯した者は、法の下で完全な責任を問われる。そうせずに、声高な者、挑発者、ポピュリストに同調すれば、無辜の犠牲者に対する裏切りになる。

数百人が刑事訴追された。我々は、司法機関の職員が被拘束者に対して禁止されている尋問方法や、拷問さえ行った事実を認めた。こうした中世のような野蛮な現象は、あらゆる進歩的な社会の原則に反する。我々も容認しない。

私は、このようなケースの最初の報告を受けると同時に徹底的に調査するよう指示した。

また、ほぼ最初の日から人権オンブズマンが積極的に活動した。人権擁護団体、国家社会信用評議会のメンバーが自由に拘置所を訪れ、1月の事件の参加者の拘留状態を調べ、彼らの苦情を検討した。

オンブズマン、権威ある法律家らが率いる独立した公共委員会が、検察庁と緊密に連携し、自らの立場を率直に表明し堅持した。

こうした活動が捜査過程を透明かつ民主的にしたため、それぞれの訴えに個別に対処することができた。その結果、不当な判決が下されるリスクを大幅に下げることができた。

市民社会と権限機関とのオープンな協力というこの実践は、私の見るところ、我が国に確実に定着するだろう。この場を借りて、社会活動家と法律家の皆さんの積極的な立場とプロフェッショナルリズムに感謝したい。

捜査の暫定的な結果はすでに出ている。確かに分かっていることは、主謀者らが権力を奪取しようとしたことだ。問題は、何が彼らをそのような行動に向かわせたのかということである。答えは明白だ。

近年、カザフスタンは抜本的な近代化と変革の道を歩み始めた。さまざまな分野で大規模な変革が始まった。これを快く思わない有力者もいた。彼らは、長年続けてきた違法行為を継続することをもくろんでいた。さらに、権力を手に入れようと躍起になっていた。

主謀者らは、プロの傭兵、武装したならず者、裏切り者の役人から成る地下集団を形成した。国の内外の敵が、権力を奪取するためにまとまった。彼らは平和的な抗議活動を破壊的な方向に向かわせ、国民を自らの犯罪的な目的のために利用した。

テロリストらは、政府機関のビルや戦略的インフラ、企業を攻撃した。彼らは当局の責任にするために、民間人を銃撃した。外国の過激派がこの状況を利用しようとした。彼らはカザフスタンをホットスポットに変え、我々の国を引き裂き、平和な生活を破壊し、大統領を失脚させようとした。これは、我々の国家に対する前代未聞の挑戦だった。

しかし、彼らの犯罪的な計画は失敗に終わった。

私はその時、どんなことがあっても国民と共にいると声明した。

「Пштең шыкқан жау жаман (裏切り者ほど悪い敵はいない)」ということわざがあるのももっともだ。クーデターを起こそうとした者たちの中には、高い地位にある有名人もいた。彼らは国家反逆者である。

裏切り者の中には、軍や特殊機関の指導者がおり、治安部隊の合法的な行動を妨げ、各都市の状況について国の指導部に誤った情報を与え、政府などの通信手段を管理下に置いた。

一言で言えば、彼らは国を不安定にするためにあらゆる手段を使ったのである。その結果、我々は集団安全保障条約機構（CSTO）に助けを求めざるを得なくなった。

我々は、国内および国際的なあらゆる規範に従って、この措置を取った。平和維持軍は我が国では一発も発砲せず、戦略的施設を保護したのみだった。このことはすべて明確に合意されていた。

2週間後、状況が正常に戻った後、平和維持部隊はカザフスタンから完全に撤収した。CSTOは我が国も加盟している集団的な機構である。

平和維持軍の重要な役割を過小評価してはならないが、結局我々は自分たちの力でならず者を倒したのだ。

これに関連して、私は特に次の問題を取り上げたい。主謀者らの裏切りによって治安機関の名誉が傷つけられてはならない。

これらの機関では、我々の同胞、我々の兄弟が働いている。彼らは国民の側に立っており、祖国のために最後まで戦う覚悟があることを証明した。彼らは献身的に国家を守り、誓いに忠実であることを示した。危機的な状況で勇敢に脅威に立ち向かった秩序の守護者に敬意を表する。

同時に、多くの市民が自発的に自衛団を結成し、公共の秩序を守ることに参加した。この重要な時に、勇気、団結、連帯を示したすべての人々に感謝する。

その数日間、我が国民は団結力と、いかなる困難も克服する覚悟を示した。愛国心によって、我々は神聖な独立を守ったのだ。

1月の事件は、我々の国家にとって最大の試練だった。我々は崖っぷちに立っていた。一步間違えれば、国家を失っていたかもしれない。

治安部隊とその関係者による陰謀の捜査は、迅速かつ秘密裏に続けられている。

証人の尋問、鑑定の実施、様々なデータの調査など、多くの作業が控えている。

1つ言えるのは、首脳部の転覆、国民や外国人の目の前で首脳部の権威失墜を目的とした大規模で緻密な作戦があったということだ。

この目的を達成するために、主謀者らは、専門的な訓練を受けた戦闘員を躊躇なく使い、最大の都市アルマトィで大混乱を引き起こし、人々に恐怖を与え、事件の致命的な結果を信じさせ、国の情勢を不安定にさせるという任務を与えていた。

したがって、この悲劇的な事件を引き起こしたすべての責任者は、社会的にどのような地位や立場を占めていたかに関わりなく、必ず処罰されると断言する。

当時は、厳しく決定的な手段しか選択の余地がなかった。最も決定的な瞬間に、私は国のために全力を尽くした。それが大統領としての、そして一市民としての義務であった。

尊敬する議員の皆さん！

親愛なる国民の皆さん！

大統領としての私の最優先事項は、これまでも、そしてこれからも、国民が求める改革を実行することだ。

政治的な近代化なくして、国の持続的な発展や大規模な社会経済の変革は不可能であると断言で

きる。

2年半の間に、我々はこの方向で大きな成果を達成した。

私が提唱した4つの政治改革パッケージの枠組みの中で、この国の民主化をさらに進めるための重要なイニシアチブが数多く実施された。

政治分野だけでも10以上の法律が採択されたことから、ポジティブな変化の規模が分かる。

その例として、平和的な集会に関する新しい民主的な法律を挙げることができる。

この法律で、反体制派の社会運動家を含む活動家たちが妨げられることなく集会を開き、自由に意見を述べるようにした。

この新しい法律は、新しい政治文化の芽を強化し、社会における相互の責任と信頼を高めることを可能にした。

一方、一部の挑発的な活動家のグループは、この本質的に民主的な法律を犯すことが可能であり、必要であるとさえ考えている。

今後大目に見ることはないと言明する。この法律は、他の法律と同様、厳格に守られなければならない。

この国の遵法精神に富む国民は、このような身勝手と無責任のために、すでにあまりにも高い代償を払っている。

法律は、権力者であろうが社会活動家であろうが、あらゆる人にとって同じである。

政治改革は、地方自治から全国的な問題に至るまで、あらゆるレベルで市民が意思決定する覚悟を持っていることを示した。

政治の変革は、公平で公正な「ゲームのルール」を確立し、あらゆる分野における依怙鬲負や独占を根絶することを目的としている。

しかし、物事のこのような論理と変化を歓迎しない者も少なくない。

グレーな裏工作を期待することに慣れた人々は、特権や収入源を失う脅威にうろたえている。

彼らは、我々の国家の基盤を崩すために、直ちに行動しなければならないと判断した。彼らは自分の国の国民にそむいたと言ってもよい。

「悲劇の1月」の後、多くの人が、反動が来る、当局は「締めつけ」を開始し近代化のペースが落ちるだろうと考えていた。

しかし、我々は決めた道から外れない、その反対にあらゆる分野で体系的な改革を早める。

現在提案されているイニシアチブは、1月の事件の前から、私が慎重に検討してきたものだ。

率直に言うと、専門家や国家公務員の中には、急がずもっと良い時期までこの計画を延期した方がよいと忠告する人もいた。今の状況を有利に使うことができるのに、なぜシステムを変える必要があるのかというのだ。

また、ゴルバチョフのペレストロイカのような様々な負のシナリオを予想してストリート・デモクラシーの嵐に対して妥当な恐れを抱いた人々もおり、しかも、地政学的な状況が非常に複雑化していた。

しかし、私は、この国にはまだ抜本的な改革が必要だと確信している。そうしなければ、この国は停滞するだろう。

停滞の壊滅的な結果を、我々は最近のソビエトの歴史の中で見てきた。そして1月の事件はある程度、国内の停滞の結果だった。

この2カ月間、私は社会経済分野、国家および社会の安全保障における優先課題の輪郭を示してきた。

今日私は、この国の政治システム包括的近代化のプログラムを発表したい。このプログラムは、

長年にわたって熟成されてきた、根本的な変化を求める国民の要求に基づいている。

このプログラムには、国会議員、憲法評議会、中央選挙管理委員会、最高裁判所、権威ある専門家の勧告が考慮されている。

このテーマについては、国民社会信用評議会のメンバーとの間で実りある議論が行われた。

文書の作成にあたっては、研究者や社会活動家、政党や非政府組織の具体的な提案が詳細に分析された。

全体として、提案する改革は、我々の社会に存在する幅広い意見の反映となっている。それらは、すでに始まった改革の論理的な継続であり、2つの緊急課題を解決するものである。

それは、第一に首尾一貫した民主化の促進、第二に国家の持続可能性と制御性の確保である。

このことは、国内で起きている社会の根本的な変化や、増大しつつある地政学的な緊張に照らして、特に重要である。

現在の国際情勢は、多くの点で冷戦の最も深刻な局面に似ている。

しかし、現在の状況は、その緊張、厳しい制裁の応酬、全世界に及ぼす予測不可能な影響という点で、前代未聞と言っても誇張ではない。いずれにせよ、このようなことはこれまでになかった。

したがって、私たちは掲げた目標から後退することなく、団結、全国民の一体性、連帯を維持することが極めて重要である。

* * *

私は、改革のための改革は必要ないと何度も言ってきた。我々は、大衆に迎合して、幻の目標や、美しいが明らかに達成できない指標のために改革を行うのではない。

紙の上で宣言された成功が現実とはかけはなれているというような慣習は過去のものになった。国民が必要としているのは、抽象的なアイデアや約束ではなく、より良い方向への具体的な変化である。

我々は、存在する問題について率直に話し合い、共に最善の解決策を探すべきである。

経済においても政治においても、公正でオープンな競争を確保し、人為的な独占を永遠に根絶することが重要だ。

国民の福祉の向上は、真の競争があつてこそ可能になる。権力の過度な集中を志向する統治システムは、すでにその有効性を失っており、多様な意見や信念を持つ市民社会を統合することはできない。

だからこそ、カザフスタン発展の政治モデルを再構築するための綿密に点検された措置が我々には必要である。

何よりも、超大統領制から強力な議会を持つ大統領制共和国へと完全に移行することが重要だ。

このようなシステムは、権力機関の最適なバランスを確保し、国の持続的な発展を促すだろう。

我々の前にある課題は、議会の役割を強化することであり、それは「聴こえる国家」というコンセプトを首尾よく実現するための重要な要素となるだろう。

我々には、強い市民社会を持つ効果的な国家「新生カザフスタン」の明確な未来像と輪郭がある。

我々は、「強い大統領—影響力のある議会—説明責任を果たす政府」という国づくりの重要な公式を実現しなければならない。

そのために、私はこの戦略的ビジョンを確実に実現するためのいくつかのイニシアチブを提案する。

第1のイニシアチブ：大統領の権限について

すでに述べたように、カザフスタンでは超大統領制モデルが形成されている。

国の発展の初期段階では、それは正しかった。しかし、我々は同じ場所に立ち止まらない。社会が変化すれば国も変化する。そして、我々の政治システムは常に新しい現実に適応していかなければならない。

現在、我が国では文字通りすべてが大統領に集中しているが、これは根本的に間違っている。このような慣習から徐々に脱却していく必要がある。

国家の長期的な利益は、私にとって権力や状況に依存する影響力の行使よりも重要である。そのため、私は1月のアマナト党の大会で、早ければ今年中に党首の座を退く意向を表明した。

政党組織と国家機関の一体化は、極めて望ましくない。政治における独占は、必然的にさまざまな社会悪や国家の劣化をもたらす。

政治的優勢に対して確実な壁を設ける必要がある。大統領の任期中の党員資格停止義務を法制化することを提案する。

この規則は、政治的競争を高め、すべての政党に発展のための公平な条件を確保する。そうすることで、我々はこの国の将来のリーダーたちを、主要な政治機関を服従させたいという誘惑から救うことができる。

同じ論理に基づき、中央選挙管理委員会、会計委員会、憲法評議会の委員長や委員が党を離脱することを義務付ける規定を我が国の法律に導入すべきである。

同時に、我々は、中央への過剰な権力集中が地域レベルにも反映されていることを知っている。そこで、地方行政の長官およびその次官が党支部の役職に就くことを法的に禁止する必要がある。

こうした決定は、多極化した政党システムの形成を可能にする。

今日、全社会に明らかになったのは、他でもない政治・経済活動の独占が1月の事件でほぼ主要な役割を果たしたということだ。

しかし、「悲劇の1月」の重要な教訓は、国の最高権力者の手に権力が集中すると、それに近い人物や金融・オリガルヒグループの影響力が不当に強くなるということだ。そして、彼らは国家を自分たちの個人的な領地と認識するのである。

縁故主義は、どんな国であれ、必然的にネガティブな人選につながり、汚職を助長するための肥沃な土壌となる。

国家元首は、全国民の機会の平等を確実に保証する存在でなければならない。

したがって、大統領の近親者は、政治的な公務員や準国家的な部門の責任者としての地位に就くことが法的に禁止される。この規則を憲法に明記することは決して無意味ではないと思う。

大統領への権力の過度な集中は、その権限の数の多さにも現れている。

国家元首は、州および特別市の行政長官の条例の効力を取り消す、あるいは中止する権利を持っている。

この規則は、「手動統治」の行き過ぎた慣行を根付かせ、地方行政機関の自主性を低下させている。

さらに、現在大統領は地区長や村長さえも解任する権利を持っている。

このような法の規定は廃止すべきである。

過剰な大統領権限の廃止は、国の政治的近代化の不可逆性を保証する重要な要素になるだろう。

これらのイニシアチブは、「ゲームのルール」を根本的に変え、我が国の社会のさらなる民主化のための強固な土台を形成するだろう。

第2のイニシアチブ：立法府の再編

大統領の権限を徐々に削減しながら、我々は議会の役割を大幅に強化し、それによって国家の制度的安定性を向上させなければならない。

国民の信託を受けた責任ある議員が国づくりに積極的な役割を果たす強い立法府が必要だ。

まず、私の考えでは、上院の形成規則と多くの機能を見直す必要がある。

現在、上院は49人の議員（各地域から2人ずつ選出）と大統領が任命する15人の議員で構成されている。

このような構造により、地域の特徴を適切に考慮し、国家元首が立法プロセスに直接影響を与えることができていた。

当時としては十分進歩的で効率的なものだった。しかし今日、我々はさらに前進しなければならない。

上院の大統領枠は、管理の手段としてではなく、議会で十分に代表されていない社会集団の声や意見を配慮するための仕組みと考えるべきである。

そこで私は、上院の大統領枠を15人から10人に減らすことを決定した。

さらに、そのうちの5人は、現在のようにカザフスタン民族会議が選出するのではなく、同会議が推薦することになる。

下院は、誰にも人為的な優遇を与えることなく、国の全選挙区を反映するものでなければならない。

そうすることで、下院におけるカザフスタン民族会議の枠をなくす、これは、私の考えでは、政治的観点からも法的観点からも正しい。

この枠は上院に移され、議員の数は9人から5人に削減される。それに伴い下院の総議席数は減少する。ことわざにもあるように、量より質となる。

この改革により、上院において様々な民族の委任状と追加票が確保される。

全体として、私は、議会における上院の存在は理にかなった正当なものだと考えている。

世界には、カザフスタンよりも人口が少ない単一国家でありながら、二院制の議会を持つ国が、特にヨーロッパにはかなり多く存在する。

もっとも、我が国の上院は、真に地方の利益を代表する議会とならなければならない。そのためには、上院の権限の改革が必要である。

憲法にしたがって、上院は、下院が承認した法案を可決あるいは否決する権利を有する。つまり、下院が上院の異議に打ち勝つ可能性は事実上ない。

よりバランスのとれた議会制度を形成するためには、この慣習を見直す必要がある。

私は、下院がすでに可決した法律を承認するか否かの権利のみを上院に認める規則を導入することが適切であると思う。

その結果、下院に法律を採択する権利が与えられることになる。

上院の権限は、憲法評議会と最高司法評議会の議長候補を調整する権利によって補完される。

この改革によって、政治システムの抑制と均衡のメカニズムが大きく強化される。

そして、立法プロセスが顕著に簡素化される。

同時に下院の機能も拡充される。

我が国では、多くの大規模なプロジェクトやプログラムが立案されているが、さまざまな理由から、その実現は理想から程遠いことが多い。

国家予算執行の質に対する議会の管理を強化するべきである。この目的のために、私は、会計委員会を最高会計監査院に改編し、その長が年に2回下院に報告を行うことを提案する。

これによって、下院の地位をさらに高めることができる。

立法府に対する国民の信頼を高めるために、地方議会「マスリハト」には特に配慮する必要がある。

強いマスリハトは、地方の緊急課題の解決や生活の質の向上を促す。

マスリハトの主体性と独立を強化するために、マスリハト議長というポストを導入すべきであるとする。

また、マスリハトの影響力を組織的に強化するために、現在の地方行政長官の任命手続を変更する必要があると思う。

現在マスリハトの議員は、国家元首が提案した唯一の候補に同意するかしないかである。

州および特別市の行政長官のポストに大統領が少なくとも2人の候補を推薦する権利を与える法律改正を行う必要がある。

そうすれば、大統領はマスリハトでの検討結果を考慮して州および特別市の行政長官を任命することになる。

つまり、地方の指導者の間接選挙ということである。

同時に、国家元首はマスリハトに諮ることなく地方の指導者を解任する権利を保持する。

立法府の再編のために提案したすべての改革は、強い議会文化と国民が選んだ影響力のある議員を持つ新生カザフスタンの建設を目的としている。

第3のイニシアチブ：選挙制度の改善

国の政治的近代化の主要な目的は、選挙プロセス等を通じて、国の統治における市民の役割を高めることにある。

15年前、憲法改革の一環として下院選挙を比例制に切り替えた。その後2018年には、マスリハトの議員選挙にも比例制が導入された。これらの措置は、我が国の政党システムの発展にとって大きな刺激となった。

しかし、このようなポジティブな傾向と同時に、ネガティブな影響も現れ始めた。

無党派の市民は、下院だけでなく、地方議会にも選出される機会を事実上失ったということ認めなければならない。

その結果、選挙は市民にとってかつての魅力を失い、政治的疎外感が大きくなった。人々は、自分の一票に意味があり、国の生活をより良いものに変えることができると信じなくなった。実際に、多くの有権者は、議員の顔を知らない。

これらのネガティブな要因に配慮し、私は、すべての市民の権利を完全に考慮した、より調和の取れた混合選挙制度への移行を提案する。

比例制と多数決制の混合モデルは、国レベルでも地方レベルでも、有権者の利益をよりよく反映することができる。

下院議員は、70%が比例ベース、30%が多数決ベースで形成される。さらに、州および特別市のマスリハトの選挙にも混合モデルが導入される。

このような選挙制度への回帰は、非常に重大な措置である。政党が下院やマスリハトに参加するための敷居を低くする目的で以前に行われた決定の論理的な継続である。

つまり今後は、各地域が下院に少なくとも1人の議員を選出できるようになる。新しいモデルは、下院においてより幅広い意見を代表し、下院をより包括的なものにする。

同時に、議員と市民との密接な連携が求められる地区や都市では、完全に多数決方式に切り替えることを提案する。そうすれば、地方レベルでより競争的な政治環境が生まれ、新しい権威ある政

治家が出現する新たな機会が開かれるだろう。

議員と有権者の結びつきは、命令的委任への移行も強化する。選挙公約の履行が不適切であった場合にリコールが可能になるため、議員に対する影響力がさらに強まることになる。

このようなアプローチは、民主主義の伝統を大きく強化し、相互責任と信頼に基づく新しい政治文化の定着を促すだろう。

比例制と多数決制の組み合わせは、市民社会の重要な機関としての政党の役割を維持するだろう。

同時に、より公正な選挙プロセスとより効率的な国家統治の条件も整備される。

混合選挙モデルの導入により、市民の選挙活動が活発化し、国の全面的な近代化への市民の関与が高まると確信している。

第4のイニシアチブ：政党システム発展のための可能性拡大

新生カザフスタン建設への道は、公正で自由な政治的競争を確保する必要性に基づいている。

そのために我々は、政党の制度的・組織的な発展のために可能な限り好ましい環境を整えなければならない。

政党の登録手続は大幅に簡素化される。

登録基準は、2万人から4分の1の5,000人に下げるべきだ。

地方代表部の最低人数は、600人から3分の1の200人に削減される。

政党を結成するための市民の発起人会の最低人数は、1,000人から約3分の2の700人に減らされる。

そして、設立大会の開催期限や支部形成の期間が延長される。

この問題における自由化は、国内の政治空間の発展プロセスを大幅に活発化するだろう。

有権者の差し迫った問題を明確にし、効果的に解決することができる新しい政党が出現するだろう。

第5のイニシアチブ：選挙プロセスの近代化

世界の経験から、選挙制度は常に変化しており、公正で透明な選挙を実施するための最適な解決策が模索されていることがわかる。

情報や技術的な要因に加え、近年ではコロナウイルスのパンデミックもこのプロセスに大きな影響を及ぼしている。

多くの国で、電子投票、期日前投票、遠隔投票、長期投票など、様々な投票の形が広がっている。

そのため、世界のベストプラクティスを研究し、必要に応じて徐々に導入しなければならない。

通信技術が急速に発展する時代において、候補者や政党のソーシャル・ネットワーク上での活動が大きな意味を持っている。しかし、現行の法律には、ソーシャル・ネットワークでの選挙運動の規定がない。それにもかかわらず、何らかの形でそのような選挙運動が行われている。

この不備を是正するため、しかるべき規制や規則を明記した上でソーシャル・ネットワーク上での選挙活動を法的に認めるよう提案する。

また、オブザーバーについても法制化する必要がある。この制度は透明な選挙にとって不可欠な要素である。

民主主義の歴史は、何よりもまず、選挙手続とその遵守の監視を改善する歴史である。

私は、オブザーバーは明確に規定された権利と責任を持つべきだと考えている。

また、選挙の組織と実施においては、地域の選挙委員会も重要な役割を担っている。昨年、村長の直接選挙が導入されたことで、国全体の選挙プロセスが実質的に恒久的なものとなった。

地域の選挙管理委員会の活動原則を見直し、その専門性を高めるべきである。

二重投票の可能性を排除するため、またどの投票所でも投票できるようにするため、単一の電子有権者データベースを作成することの妥当性を検討する必要がある。

そして、特定の人物が選挙に影響を与えることを防ぐために、選挙基金への寄付の限度額を設定する必要がある。

憲法上も国際法上も、カザフスタンのあらゆる選挙は厳密に内政問題である。しかし、このことは、外国から選挙結果に影響を及ぼす潜在的な試みを排除するものではない。

これらの要因や、選挙技術の利用を含め世界の様々なハイブリッド脅威の全般的増加を考慮すると、我が国の選挙に対する外国の干渉のあらゆる可能性を防ぐために、法律レベルで有効な措置を講じる必要がある。

第一に、候補者、オブザーバー、マスメディアを問わず、選挙運動のすべての参加者の資金の透明性を最大限に確保することである。

第6のイニシアチブ：人権擁護機関の強化

憲法は最高の法的効力を持ち、国の法体系全体の基礎である。しかし、個々の法令や決定が憲法の規定に合致しているかどうか、明確な答えを出すことが困難な場合も少なくない。

カザフスタンで様々な法令の解釈を行っているのは憲法評議会である。しかし、国民は、憲法評議会に直接説明を求める可能性を持っていない。

一方、世界の多くの国には、誰でもしかるべき要求を行うことができる憲法裁判所のような機関がある。独立当初、カザフスタンにも憲法裁判所が存在していた。

専門家は、憲法裁判所は憲法規定の遵守をより効果的に確保できるという意見で一致している。

このような状況に鑑み、私は憲法裁判所の設立を提案する。検事総長と人権オンブズマンにも、憲法裁判所に訴える権利を与えるべきである。

これらのイニシアチブが、公正な法治国家を築き、抑制と均衡のシステムを制度的に強化し、国民の憲法上の権利を守るための重要なステップになることを確信している。

ご存知のように、私は市民の基本的な権利の擁護に特別な注意を払っている。

2020年、我が国は、死刑廃止を定める「市民的および政治的権利に関する第二選択議定書」に加盟した。そして昨年、私はこの分野の長期的かつ包括的な発展に向けた人権分野の今後の措置に関する大統領令に署名した。国家社会信用評議会の参加のもと、一連の進歩的なイニシアチブが実行された。

しかし、人権擁護の問題には継続的な改善が必要である。

最終的に死刑廃止を決定するためには、憲法にしかるべき改正を行う必要があると考える。

拷問に関連する犯罪の捜査に、体系的なアプローチを導入することが重要である。

現在は、この分野を担当する具体的な機関は存在しない。

このような状態は、ある種のリスクをはらんでいる。

したがって、これらの機能を最高検察庁に割り当てることを提案する。

それによって、捜査の客観性と公平性を確保でき、治安分野における横暴は必ず処罰されるということが確実になる。

また、社会における暴力のレベルを下げるために、体系的な対策を講じる必要がある。

ここでは、家庭内暴力への効果的な対応が大きな役割を果たす。

現在、市民や社会活動家から、女性や子どもへの暴力に対する罰則を強化する必要性を訴える声が高まっている。

私は以前、このような行為を犯罪と定義することが妥当かどうか判断するよう指示した。

最高検察庁にこの問題を総合的に調査し結論を出すよう指示する。

総じて、法の支配を高め、人権擁護活動を体系的に強化するためには、検察庁と人権オンブズマンに関する個別の基本法を採択することが妥当だと考える。

法の支配は、あらゆるレベルにおいて真に独立し、オープンで、プロフェッショナルな裁判所がなければ不可能である。

国はこの方向で多くの取り組みを行っている。

新しい人材採用制度が導入され、裁判や訴訟手続の透明性が徐々に高まっている。

この問題で最も重要な役割を果たすのは最高司法評議会であり、大統領が裁判所を設立する憲法上の権限を確保し、判事の独立と不可侵を保証している。

憲法裁判所の活動が完全に透明かつ社会の監視に対して開かれたものであることは極めて重要だ。

これは、最高司法評議会の入札手続をオンライン中継し、その結果について詳細かつ論拠のある説明を公表することによって達成できる。

司法への市民の参加を拡大することができるのが陪審裁判である。

カザフスタンでは、陪審員は特に重大な犯罪についてのみ評決を下すことができる。私は、さらに進んで、陪審裁判の対象となる事件のカテゴリーを拡大すべきだと思う。

この改革によって、司法制度が民主化され、司法に対する社会の信頼が高まるだろう。

第7のイニシアチブ：マスメディアの競争力向上と市民社会機関の役割強化

現代においては、どんな進歩的な国にとっても、競争力のある自由なメディアを持つことが極めて重要である。

国内のマスメディアは、カザフスタン、地域、世界で起きているプロセスについて独自の見解を持たなければならない。真の情報セキュリティと、国のイデオロギーの主権は、まさにこれにかかっている。

国は、開かれた情報空間、必要とされる強力なメディアの創出に特別な注意を払っている。

マスメディアは、政府と国民との間の効果的なコミュニケーション・チャンネルとして、緊急の問題を提起することができるし、そうすべきである。しかし、それは強い市民的責任感を持って行うべきであり、外部からの指示で我が国の社会の分断を促進したり、また、闇の報酬のために政治勢力の隠れた争いに参加したりしてはならない。

ジャーナリストは、心から自分の国や国民のことを考えなければならない。マスメディアが「第4の権力」と呼ばれるのは理由があつてのことであり、だからこそ国民の理性と心に与える自らの影響力を細心の注意を払って行使すべきである。このことを私は特に、我が国のジャーナリストの皆に宛てて述べている。

私は、さらなる民主的改革は独立した責任あるマスメディアなくしては不可能だと確信している。

そのため、国家の利益、社会の要求、メディア分野の発展傾向を考慮してマスメディア法を見直す必要がある。

また、この国の持続的かつ包括的な進歩のためのもう1つの重要な要素が、市民団体の活動である。

非政府部門は、常に重要な社会問題を提起し、包括的な解決を促進する。

今日のカザフスタンが直面している課題は、国家と非政府組織の連携強化、市民社会機関の根本的な再起動を必要としている。

改革の準備と実施に、市民団体と活動家がより広く深く関与することが必要である。そのために、まず、すべての国家プロジェクトと戦略文書に関するオープンな議論を実現する必要がある。

この問題においては、対話を模倣したり見せかけを整えたりすることは許されない。

我々は、この国の市民の積極性を目覚めさせ、国家と社会の間の意識的かつ建設的なパートナーシップを築くプロセスを開始しなければならない。

まさにそのために、我々は中央および地方の行政機関や準政府部門で市民評議会を発展させている。

私は、市民評議会の活動について繰り返し批判してきたが、全体として、それらは大きな組織的可能性を持っており、それを十分に実現する必要がある。

今年は、私の発案でそれらの構成や活動計画を抜本的に刷新する予定である。

ことわざにもあるように、「Кеңесіп пішкен тон келте болмас（皆で協力して縫ったコートは短くならない）」のである。

私たちの祖先は、常に全員で議論し運命的な決断を下してきた。ウリタウ、オルダバシ、クルトベでの大集会がその証しだ。

我々は、全国民統一の基礎を築いたこの大草原の民主的な伝統を復活させなければならない。

そこで私は、これまで首尾よく役割を果たしてきた国家社会信用評議会に代えて「Ұлттық құрылтай（国民クリルタイ）」を創設することを提案する。

新しい機関は、全国民レベルで国家社会信用評議会の活動を継続する。

クリルタイは、社会対話の統一機関のモデルを形成しなければならない。

クリルタイは、政府と国民の連携を強化する。

既存のすべての市民評議会の活動が体系化される。

国民クリルタイには、すべての地域の代表者が参加する。さらに、国会議員、カザフスタン民族会議、市民同盟、市民評議会や団体のメンバー、権威ある社会活動家、実業界、産業、農業の代表者、その他の市民が含まれる。

このようにして、我々はさまざまな意見や見解が幅広く代表される組織を持つことになる。クリルタイのメンバーは、重要な問題や課題を議論するために定期的に会合を開く。

第8のイニシアチブ：国の行政区画構造の改善

選挙制度や議会の構成規則を変更する際には、行政区画構造を考慮する必要がある。

独立の初期に、国内のいくつかの州が合併した。これには政治的、経済的な理由があった。

今日、カザフスタンは新たな発展段階に入ろうとしている。社会経済や人口動態の状況はすでに全く変わっており、我々は以前とは異なる問題や課題に直面している。

我が国の発展は、地方の繁栄に直接的に依存している。私はこの問題について、2019年の演説で詳しく説明した。「強い地方—強い国」という原則は変わっていない。

この点で、国の行政区画構造が最適であることが非常に重要である。

以前、シムケントは特別市としての地位を与えられ、南カザフスタン州はトルケスタン市を州都とするトルケスタン州と改称された。これは、国民に支持された正しい決定だった。

私は、「独立第一」という論文の中で、この試みは継続されるだろうと書いたが、その後、市民から多くの提案が寄せられた。

私の指示で、すべての提案が詳細に検討された。それらの要望を踏まえて、今日はいくつかの新しい取り組みを提案したい。

まず、セメイ市を州都とするアバイ州の設立を提案する。

以前から地域の住民がこの問題を取り上げてきたことを知っている。現在、当地には、老朽化したインフラなど未解決の問題が数多く存在する。かつてアラシ運動の中心地であったセメイ市の状況も好ましいものではない。

我々は、歴史的正義を取り戻し、我が国民に多くの偉大な息子を与えてくれたこの聖地を復活させなければならない。

元ジェズカズカン州の領土に、ウルタウ州を設立する必要がある。

ジェズカズガンは再び州都となる。

この地域に独立した州を作ることには、経済的な意味だけでなく、精神・文化的な意義がある。広大なカザフスタンの中心に位置するウルタウ地方は、我が国の歴史に特別な位置を占めている。この地で、重大な集会が開かれ、国民にとって重大な決断がくだされた。

サリヤルカの中心に位置するウルタウは、観光業にとって非常に大きな可能性を秘めている。その生産・物流能力を十分に実現する必要がある。つまり、我々はウルタウ地域の発展のための道を切り開く。

アルマトィ・アグロメレーションに関しても多くの問題がある。

アルマトィ州の住民は、ほとんどがアルマトィ近郊に住んでいる。同時に、例えばウジナガシュやタルガルの問題を、タルディコルガンから解決することは容易ではない。さらに、住民は州都に行くのに長い距離を移動しなければならない。

このような事情から、この州をジェティス州とアルマトィ州に分割することを提案する。アルマトィ州の州都はカプチャガイ、ジェティス州の州都はタルディコルガンとなる。

これらの措置は、この地域の発展の大きなきっかけになると思う。

一般に、新しい州の形成の問題は、多くの人々の関心事である。かつて州としての地位を失った地域で、人口が減少し、生活の質が低下したことは周知の事実である。この状況を是正する時が来た。

行政区画の変更は、国家統治のプロセスを最適化し、州都への行き来を容易にし、国内移住のより効果的な調整を促す。

提案した新しい州の名称、アバイ、ウルタウ、ジェティスは、特別な意味を持っている。

我々は、古来の地名を復元し、偉大な人物たちの記憶を復活させることで、民族の自覚の強化を続ける。

例えば、カプチャガイ市は、我が国民の歴史の中で傑出した人物であるディンムハメド・クナエフと密接な関係がある。そして、もし国民が彼の名を冠した都市名を提案するなら、私はそのような立場を支持するつもりだ。

私は、市民の提案や意見に基づいてこれらのことを述べている。地域住民がこれらの取り組みを支持するなら、近い将来実現すべきだ。

私は、政府に対し、行政区画構造の問題を慎重に検討し、これらのイニシアチブを実現するための方法を提案するよう指示する。これは簡単な問題ではなく、すべての細部を考えて取り組む必要がある。

また、今述べた提案は、地域の人口に応じた削減という観点から、州および特別市の行政府の公務員数を最適化するための機会でもある。

いずれにせよ、行政府長官の次官は3人以下、例外として4人までとすべきである。

これは大統領府が取り組むべき問題である。

第9のイニシアチブ：地方自治の分権化

政治の近代化を成功させ、市民社会を発展させることは、分権化のプロセスのさらなる深化なしには不可能である。我々は、中央から地方への実権の移譲を進めていく。

まず、国と地方自治体の機能を効果的に区分する必要がある。

強力な地方自治制度は、市民が自分の住む地域の生活の質の向上に直接参加するための基盤であることを理解する必要がある。

間違いなく、カザフスタンの人々は、かなり以前から自分たちの都市、地区、村に責任を持つ覚悟を持っている。人々を過小評価してはならず、彼らが引き受けることのできる権力を渡すことを恐れてはいけない。

政治の近代化の一環として、マスリハトは地方自治の重要な要素となるべきだ。

今日、マスリハトは地方行政機関であると同時に地方自治機関でもあるという、混合的な性格を持っている。そのため、マスリハトの権限を明確に定義する必要がある。

地方交付金制度を抜本的に見直す必要がある。

現在、農村地区は上位の行政府に完全に依存し、残余方式で支援を受けている。

地方行政政府長官の選挙制の導入を鑑み、世界の先進的な経験にしたがって地方自治体への直接公布制度を導入するのが合理的である。

また、地方自治体の財産基盤を大幅に拡大する必要がある。実質的な財源があれば、地方自治体は本当の意味で状況に影響を与え責任を追うことができるようになる。そうでなければ、自治ではなく、自治の真似事に過ぎない。

この問題に関して必要な準備作業を本年半ばまでにすべて完了させる必要がある。

もう1つの重要なステップは、地方自治体の調達手続きを簡略化し、官僚主義や形式主義を排除することである。

私は、政府に対し、大統領府と共同でこれらの指示を実現するための仕組みを詳細に検討し「地方自治に関する」法律の起草時にそれを考慮するよう指示する。

また、この分野の基本的な国際文書である欧州地方自治憲章をカザフスタンが批准する問題も検討する必要がある。

これらの措置はすべて、人々が関心を持っている問題の効果的な解決のために地域社会を動員することができる、真の権威と責任のある地方指導者の出現を促すだろう。

地方自治制度の真の強化は、地域が発展し、依存体質が弱まり、国内に民主的改革が深く根付くための新たな機会を切り開くだろう。

第10のイニシアチブ：優先的な危機管理対策について

カザフスタンは、地政学的状況の急激な緊張に伴い、我が国の現代史に例を見ないほどの財政・経済的困難に直面している。

激しい制裁の応酬は、現在すでに個々の国だけでなく、世界経済全体にも深刻なコストを強いている。

状況は、文字通り1時間単位で急速に変化している。世界市場で不確実性と動揺が増し、生産と貿易の繋がりが崩壊しつつある。

しかし、それでもパニックになる理由はない。我が国には、大規模な危機を乗り越えるために必要な蓄えと手段がすべてある。

政府は、優先的な危機管理対策の包括的なパッケージを早急に実施する必要がある。

第一に、自国通貨の安定を確保する必要がある。これは、我が国の経済的安全にとって最も重要

な要素である。

世界における昨今の出来事は、テングの為替レートに甚大な圧力をかけている。これは皆さんもよくご存知のことだろう。為替市場の不安定さは、パニック、資本の撤退、国境を越えた「グレーな」資金流出によるものだ。

そのため、金融部門は外部からの買い手の行動などによって生じた投機的な需要を抑える必要がある。

一昨日、外貨の持ち出しを制限する特別令に署名した。

大規模な機関投資家は、外貨の供給を確保した上で、契約上の義務の履行の範囲内でのみ外貨を購入すべきである。

国が資本参加している企業の輸出による外貨売上の売却率を増やす問題を検討する必要がある。民間の地下資源利用企業も外貨収入の売却を実施するよう期待する。

契約上の義務の枠内で、中央銀行以外の銀行は顧客の外貨購入を管理・監視する必要がある。

銀行がこの要件を遵守していることを厳しく監視しなければならない。

市場における投機は、決して我が国の準備金の不当な「焼却」の原因となってはならない。

政府、中央銀行、金融市場発展規制庁は、この方向で断固とした行動をとる必要がある。全体として、特別な解決策が必要だ。

現在の極めて不安定な国際情勢では、国の食料安全保障が重大な意味を持つようになっている。

ウクライナでの出来事により食料価格が急騰している。近い将来あらゆる絶対的な記録が更新される可能性が十分ある。

このような背景から、種まきの質が重要な問題となっている。しかし、私の知る限りでは、まだ種まきの準備が整っていない農家が多い。

政府と地方行政府はこの作業を特別に管理しなければならない。農家に必要な量の燃料や潤滑油を手頃な価格で提供する必要がある。

農機具、種子と肥料の準備状況を再確認する必要がある。

地域によっては降雨量が少なく、収穫量に悪影響を及ぼし、飼料不足につながる可能性があることも忘れてはならない。

全体として、農家のコミュニティと共に、農工コンプレクスに対する国の支援のあり方を見直す必要がある。

食料不足と無秩序な食料価格の上昇を防ぐため、農産物を先物価格で国家安定化資金が購入することを検討すべきである。

急速に変化する環境の中で、国家機関は状況に迅速に対応し、極めて調和的に行動しなければならない。

ここでは、遅い意思決定や官僚的な形式主義は許されない。

現在は、完全に結集することが必要である。企業や市民からの実際の要望に基づき、長くても3日以内、できれば24時間以内に、迅速な決断が行われなければならない。

政府の下に設置された対策本部は、同時に、情報をリアルタイムで分析し、具体的な緊急措置も立案するシチュエーション・センターとしても機能しなければならない。

システムレベルでは、国の発展を著しく阻害する過剰な官僚主義を根絶する必要がある。官僚主義の規模は、多くの国家機関がそれを自分たちの存在意義と考えるほどに大きい。

まもなく私は、国家機関の脱官僚化に関する法令に署名する。これは、国家機関の内部手続を抜本的に見直し、規則制定や予算編成のプロセスを最適化するための出発点となるだろう。

さらに、政治の近代化戦略を考慮した経済および国家統治における構造改革の新パッケージを早

急に策定する必要がある。

新生カザフスタンの基盤は、政治改革と経済改革の調和のとれた組み合わせに基づかなければならない。

それによって、我が国の進歩と国民の生活水準の向上が可能になる。

親愛なる国民の皆さん！

今日、私が発表したイニシアチブは大規模なものだ。政治体制や行政区画構造を大きく変えるものである。

これらを実施するためには、憲法の30以上の条文を改正する必要がある。また、年末までに20以上の法律を採択しなければならない。

立法作業は複雑で時間のかかるプロセスであり、責任を持って取り組まなければならない。内外のあらゆる課題を考慮しなければならない。

独立後、我々はあらゆる困難を立派に乗り越え、大きな成功を収めた。

抜本的な変革の始まりは、世界で発生した危機と重なった。

現在の国際情勢がカザフスタンにも影響を及ぼしていることは明らかだ。

しかし、どんなに困難な時代であっても、我々はしっかりと自らの道に沿って行くだろう。

過去の教訓を生かし、我々は自信をもって未来へ向かって進んで行く。

この道では、何よりも団結、冷静な理性と忍耐、知恵と自制心が必要だ。

私たちは、すべての決断を慎重に考慮し、個々の問題に真剣に取り組まなければならない。

高い愛国精神を持つ国は、すべての目標を達成することができる。

我々の使命は、新生カザフスタンを築くことだ。

それはどういう意味か？

新生カザフスタン、それは、我々の主権国家の未来の姿だ。

未来を信じない国民は強い国家を築くことはできない。歴史上、そのような例はたくさんある。

我々の意思は固く、カザフスタンの明るい未来を信じている。

我々は、市民一人ひとりの憲法上の権利の遵守を確保する。

我々は、国家と社会の間の相互の尊重と信頼に基づく新しい政治文化を築く。

国は一人ひとりの声に耳を傾け、重要な決定は市民の参加のもと公開で採択される。

我が国では、良心的な労働、進歩的な知識、優れた経験が常に高く評価されるだろう。

私は、新生カザフスタンにそのような国になってほしいと考える。

我々の目標の達成のためには、国家機関の改革や人事の刷新だけでは不十分である。各人が自分自身の変革から始めなければならない。個人と社会の価値観を再構築する必要がある。

それは、簡単なプロセスではなく、何年もかかる。高い責任感、相互の信頼と配慮、そして祖国への愛が我々を助けてくれるだろう。

誰も自分に代わって何かをしてはくれないということを理解する必要がある。すべては我々の手の中にある。

一緒に新生カザフスタンを作っていこうではないか。

私は、国民の支持を得て、団結と調和のもと、目標を達成できると確信している。

* * *

今日、地球上では破壊的な地政学的嵐が吹き荒れている。

だからこそ我々は、国家の主権と領土の保全を守り、国民の基本的利益を確保することを目的とした戦略的な政策を堅持しなければならない。これが最も重要な課題である。

我々は、最大の財産である独立を守り、国民のアイデンティティー基盤を強化し、国の変革に集中しなければならない。これは、未来の世代に対する我々の神聖な義務である。

今は政治的なバリケードを築き、あらゆる理由で集会を開き、怪しげな解決策を主張し、反駁を許さない要求を掲げ、義務を果たしている警官に襲いかかる時ではない。このようなことはすべて、国際社会の目から見て、我が国の国民の信用を失墜させる。「悲劇の1月」事件は、すでに我が国の評判に深刻なダメージを与えているということを認識しなければならない。

混沌とした政治改革は、国家の弱体化を招き、その主権と一体性に重大な影響を及ぼす。

国が領土の大部分を失い、混乱と無政府状態に陥った例は、古来および最近の世界史でも数多く見られる。

新生カザフスタンを築く政策は、国の発展パラダイムを変えることを目的としている。

我々は一步一步を熟慮し、決めた道に沿って進んでいく。

新生カザフスタンでは、「意見は違っても、国は1つ」という原則を必ず守らなければならない。

対話と歩み寄りの高い文化は、我が国の市民的連帯を強化する大きな要素の1つとなるだろう。

我々は、無知や時代遅れ、急進主義や依存体質、消費の崇拜や汚職に断固として反対する。

我々は、相互の孤立を克服し、社会における変革の現実性に対する信頼を取り戻さなければならない。

我々は、人々のエネルギー、才能、勤勉さに期待する。

市民一人ひとりの自己実現のための可能な限り好ましい条件を作り出す。

そうすることによってのみ、国民の創造的な可能性を高めることができる。

そうすることによってのみ、我々自身の変革の時代を作り出し、あらゆる生活領域で新しい現実を創造することができる。

我々は共にどんな困難も乗り越え、我々のカザフスタンをさらに強くしていくことができると確信している。

* * *

私は、我が国の市民に、明日ではなく、今日、幸せな生活を送ってほしい。

独立は、我々にとって何よりも大切なものだ。

この不安定、不確実な世界において、我々のカザフスタンは我々以外の誰にも必要ではない。

私にとって、国の幸福より重要なものはない。私が最も関心を持っているのは、国の未来がどうなるかということだ。

他人が私の活動をどう評価するかに関わりなく、私の最も重要な責務は、我々の国家を守ることである。

そして、私は全責任を負う覚悟がある。

私の神聖な義務は、先祖の教えに忠実であることだ。

新生カザフスタンは、現世代が未来の世代に向ける教えである。

共に新生カザフスタンを築こう！

神聖な祖国に繁栄あれ！